

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業
割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来
の見通し予測を行う。

DIがプラスなら……好転、上昇基調

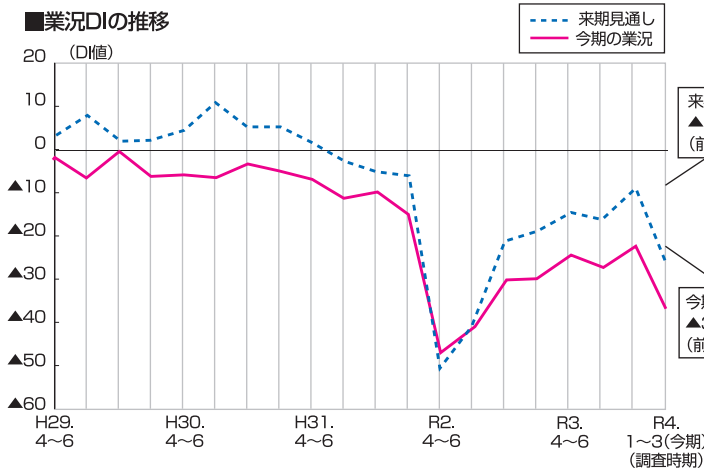
DIがマイナスなら……悪化、下降基調

記号の見方

DI値	-25以下	-25~-10P未満	-10~-10P未満	10~25P未満	25P以上
景況	特に悪化 ↓	悪化 ↘	横ばい →	好転 ↗	特に好転 ↑

鹿児島商工会議所 景況調査

調査期間 令和4年1~3月
回答企業数 127社



今期業況は再び悪化。先行きへの不透明感から来期も厳しい見通し

【今期(令和4年1~3月期)の業況】
全産業の業況DI値は、▲37・6
(前期比マイナス15・7ポイント)で
悪化。前期、改善がみられたものの、
再び悪化に転じた。

【来期(令和4年4~6月期)の見通し】
全産業の来期見通しは、▲27・7
(前期時の来期見通し(▲8・7)
と比較してマイナス19・0ポイン
ト)で大きく悪化。特に建設業では
非常に厳しい見通しとなっている。

■産業別DI値表

		前期 [R3.10~12] (A)	今期 [R4.1~3] (B)	増減 (B)-(A)	来期見通し [R4.4~6]	
業況	全産業平均	▲21.9	▲37.6	▲15.7	▲27.7	↓
	製造業	▲23.1	▲44.8	▲21.7	▲30.0	↓
	建設業	▲33.3	▲33.3	0.0	▲62.5	↓
	卸売業	▲22.2	▲25.0	▲2.8	▲14.3	↘
	小売業	▲30.0	▲41.4	▲11.4	▲40.0	↓
	サービス業	▲6.1	▲36.4	▲30.3	0.0	→
売上額	全産業平均	▲25.0	▲40.2	▲15.2	▲14.9	↘
	製造業	▲34.6	▲43.3	▲8.7	▲20.0	↘
	建設業	▲30.0	▲61.1	▲31.1	▲50.0	↓
	卸売業	▲33.3	▲18.8	14.5	14.3	↗
	小売業	▲20.0	▲50.0	▲30.0	▲30.0	↓
	サービス業	▲14.7	▲27.3	▲12.6	8.3	→
資金繰り	全産業平均	▲10.9	▲28.3	▲17.4	▲21.7	↘
	製造業	▲23.1	▲36.7	▲13.6	▲22.2	↘
	建設業	▲9.5	▲38.9	▲29.4	▲62.5	↓
	卸売業	0.0	0.0	0.0	0.0	→
	小売業	▲26.7	▲53.3	▲26.6	▲40.0	↓
	サービス業	5.9	▲6.1	▲12.0	8.3	→
採算	全産業平均	▲27.9	▲40.8	▲12.9	▲19.6	↘
	製造業	▲38.5	▲48.3	▲9.8	▲20.0	↘
	建設業	▲33.3	▲50.0	▲16.7	▲57.1	↓
	卸売業	▲27.8	▲25.0	2.8	14.3	↗
	小売業	▲36.7	▲58.6	▲21.9	▲40.0	↓
	サービス業	▲8.8	▲21.2	▲12.4	0.0	→

【今期の売上額・資金繰り・採算】
全産業の売上額DI値は、▲40・2
(前期比マイナス15・2ポイント)と悪化。特に、建設業と小売業は大きく悪化した。

全産業の資金繰りDI値は、▲28・3
(前期比マイナス17・4ポイント)と悪化。特に、建設業と小売業は大きく悪化した。

全産業の採算DI値は、▲40・8
(前期比マイナス12・9ポイント)と悪化。依然として厳しい状況が続いている。

【回答企業のコメント】
・原材料費や燃料費の高騰に加え、半導体や部品不足の問題など厳しい状況が続いている。(製造)
・工事の問い合わせの減少や見送りが続き、受注が低迷している。社員や下請業者の中にコロナの待機社員が出るなど、人手不足も深刻化している。(建設)
・顧客の収入減少や物価上昇により、買い控えが目立つようになった。仕入価格の上昇を販売価格に転嫁しづらい状況。(小売)